

PMR 資格試験への挑戦 4

未来・夢を管理できる人生管理システムで人を幸せに

中西 剛

■ 受験動機

いろいろなプロジェクトを経験し、「進むプロジェクト」と「進まないプロジェクト」との違いを見つけるため、P2M の PMC 研修に参加したのがきっかけでした。PMS 資格や P2M のセミナーに参加するにつれて、その違いが分かり、プログラムマネジメントの重要性に気づき、受験を志しました。

社内でも DX を進める必要が出る中で、価値創造とイノベーションの仕組み作りをするためには他社との交流が必要で、対外的に認知された PMR の肩書で取り組む決意をし、PMR 試験に申し込みました。

■ 受験の感想

野村克也さんの語録に、仕事をする上で必要な要素は、①問題分析能力 ②人間関係能力 ③未来想像能力 とあります。PMR 試験は、まさにこの3点を評価する内容でした。

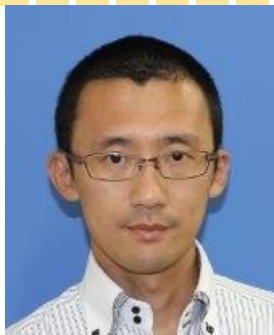
1 次試験（筆記・面接）を受けた後、日常生活の中には、様々なプログラムマネジメントがあり、それによって生活していることに気がきました。この試験を受けなければ、考えることもなかった分野におけるプログラムマネジメントについて、制限時間中に答えを見つけるのが難しくもあり、また何が答えなのかを考えなければならない試験でした。

2 次試験はグループ討議で、初めて出会う仲間と課題プログラムに対する価値創造でした。所属も社会経験も異なるメンバーが、DEI（Diversity, Equity and Inclusion）の精神で、目的に向かって、お互いのダイバーシティ（多様性）をインクルージョン（包摂）することができ、このグループにしかない価値創造ができました。また、審査員の指摘や質問が、試験とは別に自身にとってのアドバイスとなり、心理的安全性も生まれ、誰がリーダーということではなく、自由に意見を出し合うことができました。短時間ではありましたが、メンバーと一緒に議論できてよかったです。

最終面接を受けた後は、自分がどうなりたいのか、何をしていきたいのかを真剣に考えるようになりました。PMR 試験は、私の今後の生き方のきっかけを与えてくれたと思います。

■ PMR としての展望

イノベーション・価値創造には、まず「夢」が必要と考えております。この夢の定義はさまざまありますが、人はどのような未来を望むのか、それに向かう夢をどのように定義するのかを一緒に考え、ロードマップを提案できる PMR になりたいと思います。最終的には、人が未来・夢を持ち続けることのできるように寄り添い、希望のある社会を創造することに、貢献できればと思います。



【プロフィール】 中西 剛（なかにし つよし）
大手製造業の IT カンパニー 開発設計ソリューション分野担当
開発設計領域におけるソリューション提案業務に従事。
専門分野は、構造・電機分野の CAD/PDM、E-BOM。